

2024年9月24日

日本初演！作曲家モーツァルトの「新たな楽曲」

第一生命ホールディングス株式会社(代表取締役社長 CEO:菊田 徹也、以下「当社」)は、本日、国際モーツァルトウム財団¹(以下「財団」)と共同で、作曲家ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの新たに発見された楽曲を日本初演奏する記者会見を当社の日比谷本社で開催しましたのでお知らせします。

本記者会見には、財団のウルリッヒ・ライジナー博士と当社取締役会長の稲垣精二が登壇し、財団が数十年の歳月をかけて研究を進める『ケッヘル目録』²について、60年ぶりの新版を公開するとともに、新たに『ケッヘル目録』へ追加された楽譜を発表し、日本初演となる生演奏を行いました。財団は9月19日にオーストリア・ザルツブルクで『ケッヘル目録』新版の発表を行っており、今回の日本での記者会見はそれに続く形で開催しました。両国での一連の発表により、モーツァルトの音楽遺産に対する関心が改めて高まることを期待しています。



新発見の楽曲は、ヴァイオリン、チェロ、フォルテピアノを交えて演奏され、モーツァルトの音楽が持つ新たな魅力を再発見する場となりました。

¹ ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトは、その作品と人格を通じて250年以上にわたり世界中の人々を魅了してきました。国際モーツァルトウム財団は、この貴重な文化遺産を保存し、普及するための世界的に有名な機関であり、モーツァルトの音楽、人生、そして人格をすべての人々と世代に伝える使命を担っています。

URL: <https://mozarteum.at/>

² オーストリアの音楽学者であるルートヴィヒ・フォン・ケッヘルによるヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの作品目録。この目録中で付与されたケッヘル番号はモーツァルトの音楽作品を時系列的に配列した番号で、世界共通の認識番号。

【文化支援事業への取組みと今後の展望】

当社は、一人ひとりの well-being の実現に向けた地域の社会課題解決に貢献することで、社会とともに持続的に成長することを目指し、国内外で様々な社会貢献に取り組んでいます。当社と財団の友好関係は、モーツァルトの住家修復事業から始まり、その後、文化芸術分野の支援を通じて関係を深めてきました。その一環として、3年に一度、モーツァルトが実際に使用していたヴァイオリンが来日し、貴重なコンサートを開催しています。

今回のコンサートは 2026 年を予定しており、同時にモーツァルトゆかりの貴重なコレクション展示の開催も企画しています。当社はこのコンサートを通じて、モーツァルトの歴史や音楽の魅力をより多くの方に深く知っていただける機会を提供します。

今後も当社は、財団と連携し、モーツァルトの音楽と文化を支えることで、その文化的価値を広めていくことを目指すとともに、社会貢献活動を通じて持続可能な社会の実現に向けた取組みを一層推進していきます。

記者会見での新たな楽曲演奏の様子や、本件に関する詳細情報、今後のイベントについては、第一生命保険の公式ウェブサイト(第一生命とモーツァルト:<https://www.dai-ichi-life.co.jp/company/mozart/index.html>)にて随時ご案内しますので、ぜひご覧ください。

<国際モーツァルトウム財団と第一生命のこれまでの取組み>

国際モーツァルトウム財団は、1880 年にザルツブルク市の市民によって「国際モーツァルトウム財団」として設立され、その起源は 1841 年の「大聖堂音楽協会およびモーツァルトウム」にまで遡ります。モーツァルトの未亡人コンスタンツェと息子たちカール・トーマス、フランツ・クサーヴァー・ヴォルフガングは、個人的な記念品の大部分をこの協会に寄付しました。これにより、同財団は、モーツァルト一家の手紙や肖像画、楽器など、オリジナルのコレクションを世界最大規模で所蔵しています。

コンサートの開催、モーツァルト博物館の運営、科学研究の3つの主要な分野で活動し、伝統を守りながら現代文化とつなげています。その目標は、作曲家との対話を通じて、多様な視点や新たな考えを引き出すことです。モーツァルトの生家や住家は、オーストリアの重要な観光名所となっています。

第一生命保険は 1902 年の創立以来、社会貢献活動の一環として芸術・文化分野への支援も積極的に行ってきました。その1つとして、作曲家モーツァルトの住家復元事業への支援があります。第2次世界大戦の際に爆撃により破壊された住家を 1996 年に復元させる事業への支援を行なったことをきっかけに、モーツァルトの原資料収集や学術研究で世界的に知られる国際モーツァルトウム財団との友好関係を築き、日本国内にてモーツァルトイベントを開催しています。

